

脱炭素チャレンジカップ2021

環境大臣賞でグランプリ

モリシヨウグループ

モリシヨウ（大分県日田市、森山和浩社長）グループは2月9日、「木質バイオマス発電を核としたSDGsへの取り組み」で、脱炭素チャレンジカップ2021（主催は一般社団法人地球温暖化



森山 社長

防止全国ネット）の環境大臣賞でグランプリを取った。

チャレンジカップでは全国の学校や企業、自治体、NPOなど様々な団体が脱炭素社会の実現に向けた活動を発表。ノウハウや情報を共有することでさらなる活動の発展に向けた連携や意欲創出を目指す全国大会だ。前身の低炭素杯を含め2011年より開催されている。

モリシヨウグループは、日田市及び近隣で育った木材で発電した

電気を同市内の小中学校や公共施設に供給する「電力の地産地消モデル・ヒタモデル」に取り組んできた。建築

廃材などのリサイクルや山林の保全のために種苗育成などを通じて環境にやさしいエネルギー供給が将来にわたり継続できる仕組みづくりを進めている。

グループ企業のグリーン発電大分（発電規模は約5700kW）では、間伐材を燃料に環境に配慮した発電を行う。そのほかのグループ企業に木質チップ製

造や環境リサイクル機械販売の日本フォレスト、小売電気事業者の日田グリーン電力がある。

同社は受賞に当たり「私たちの取り組みがこのような形で評価されたことは身に余る光栄だ。地域や山林資源への感謝を忘れずに誇りを持つと同時に、長期的な取り組みとなるよう環境保全とビジネスを両立させ、脱炭素社会の実現に積極的にチャレンジしていく」とのコメントを発表した。

2021年3月4日（木）  
日刊木材新聞 6面